

経営比較分析表（平成30年度決算）

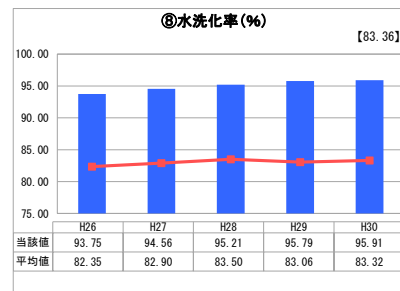
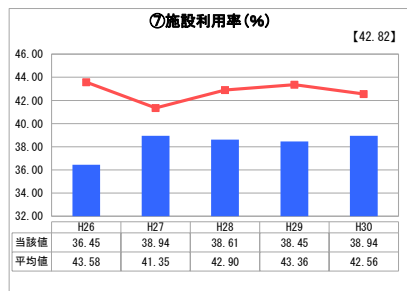
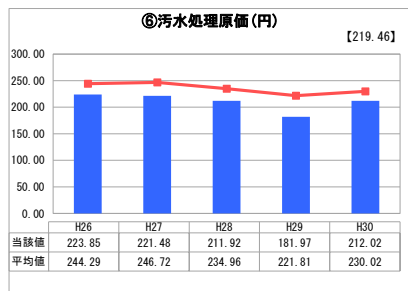
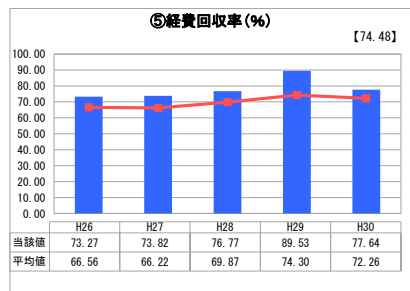
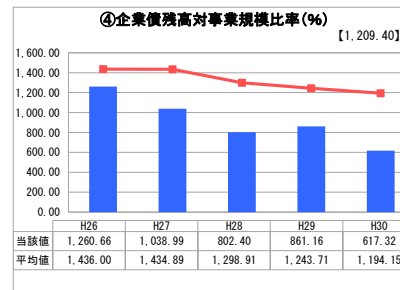
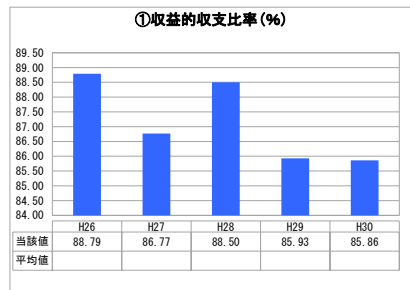
岐阜県 富加町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	61.39	80.50	3,348

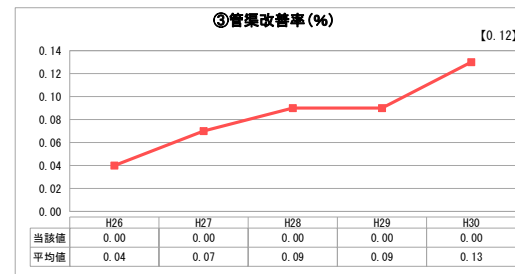
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
5,714	16.82	339.71
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
3,524	1.59	2,216.35

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

④、⑤、⑥から類似団体の中でも健全であると言える。しかし、①より収益的収支比率及び経費回収率が100%未満であることから、料金収入だけで維持管理経費や企業債務還を賄えず、一般会計からの繰入に依存している状況であると言える。今後老朽化が進み、更新に費用を要することになれば、使用料等の見直しが必要になってくる。

⑦から施設利用率が約39%と低い。安定した処理はできていないが効率が悪くなっている。将来、人口増対策や農集地区の一部との統合を検討し施設利用率の向上を図る。

⑧から水洗化率が高いことが言える。今後とも水洗化の啓発を行っていく。

2. 老朽化の状況について

平成元年度に国の事業認可を受け平成11年3月に供用を開始しており、平成16年度末には、汚水の面整備をほぼ完了している。現在は整備された施設のうち浄化センターとマンホールポンプの維持管理を重点的に実施している。浄化センターの機械設備やマンホールポンプ等は耐用年数の到来により順次経年劣化時期を迎える。

全体総括

今後、平成28年度に策定した経営戦略に則り、収支均衡を図る。また、企業会計への移行を令和2年度に実施し、特定環境保全公共下水道事業の経営状況の『見える化』を図る。汚水処理構想策定時の計画には盛り込んでいなかった地方債残高の実績が増加している。施設の老朽化が進んでいるため、長寿命化計画・ストックマネジメントによる計画的な施設等の更新に取り組む。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。